

## 《小学校中学年の部》

「何か手つだうことはありますか」

有田市立箕島小学校 4年

田中 佑紀 くん



ぜったいに自分から声をかけるぞ。心に決めて、なごみのデイサービスボランティアに行きました。一学期に学校で車イス体験をした中で、こまっている人がいたら、「だいじょうぶですか。」と言うのがいいと思っていたけど、「何か手つだうことはありますか。」と声をかけるんだよと教わりました。この事がぼくの心に一番のこっぴいて、そんな風に声かけをしたいなあと思って参加しました。

最初に、お茶を入れてわたしました。

「お茶です。どうぞ。」

ぼくは、お年よりの人は耳が聞こえにくいと思ったので、聞こえやすいように耳の近くで言うようにしました。

「ありがとうよ。かえらしなあ。いっしょに来てるんは、お姉ちゃんかい。」

「そうです。二人兄弟です。」

「おばちゃんは、七人兄弟やで。」

ぼくは、今では考えられないほど兄弟の数が多くて、とてもびっくりしました。そして、兄弟の中には戦争に行った人もいると話してくれました。ぼくは、戦争はとても古い話だと思っていたので、おどろきました。かべにはってある表を見ると、なごみに来ている人は全員大正生まれでした。ぼくは本当にびっくりしました。手をみると、とてもしわしわでした。長い間生きてきた手だなあと感じました。あたたかいすてきな手だと思いました。ごはんをいっしょに食べた時、いつも家で食べているごはんよりやわらかくて、はじめはびっくりしたけれど、すぐにお年よりの人たちが食べやすいよう工夫してあるんだと気づきました。心配りがすごいなあと思いました。

自分から声をかけるのはむずかしくて、たくさん言えなかったけど、声かけをした事で自分の知らない話を聞く事が出来て良かったです。ぼくは、心配りや声かけがちゃんと出来る人になりたいと思いました。